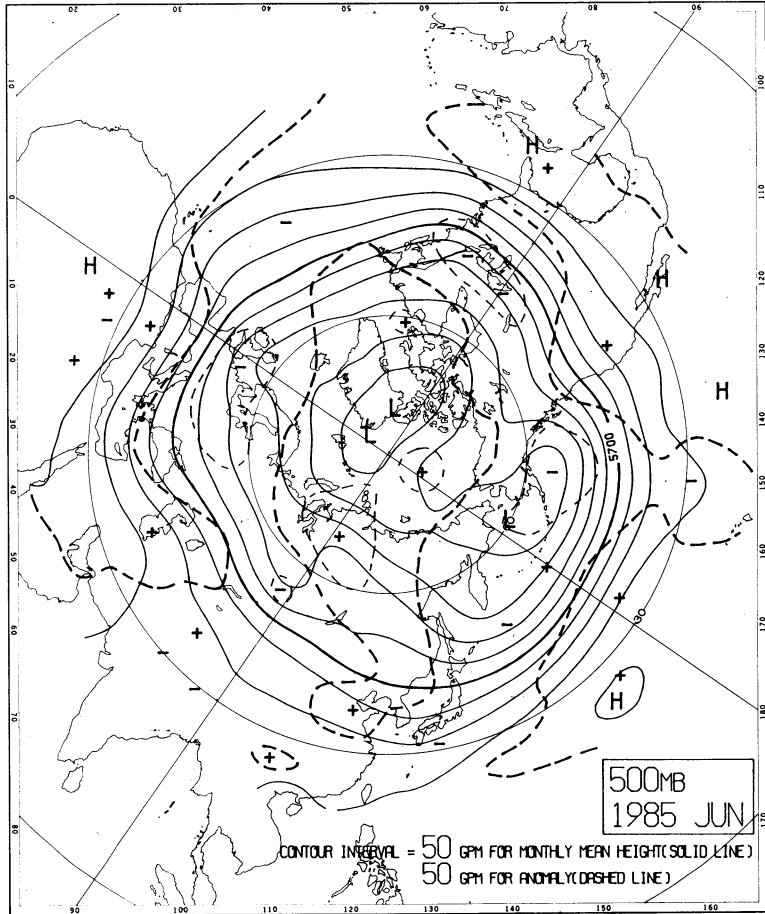


月平均500mb 天気図. 1985年6月

(破線は平年からの偏差. 単位m)



活発な梅雨

今月は、極東と大西洋側で、南北流が強く現れた循環となった。6月といえば日本では“梅雨”の季節である。高緯度では日本の東側に谷が、日本付近では西側に谷ができ、これにより、北からの寒気と南からの暖気が日本の中部で合流して、梅雨をもたらす。今年はそのパターンが良く出ており、その上、日本付近で、負偏差（平年より気圧が低い）、その西側では正偏差と、谷が深くなっている。このため、日本の中部では前線活動が活発となり、雨が降り続く梅雨らしい梅雨となった。月降水量でみると、厳原で観測史上1位の1101mm（平年の3.9倍）の雨を記録したほか、広島で

2位の659mm（平年の2.6倍）、福岡で642mm（2.4倍）、東京でも平年の2.1倍という多雨となった。

一方、谷の西側となった北海道・東北北部では、記録的な少雨となった。一般に、500mb天気図で谷の後ろ側（西側）となったところは、下降流となり晴天となるが、北西流のために気温は低めとなる。今月はこの点が顕著であり、6月の降水量が観測史上1位の少雨を記録した観測点は、釧路、浦河、青森、同2位は、根室、札幌、寿都、函館となっており、月平均気温も平年より低くなったところが多い。

(気象庁長期予報課 林 久美)